



# 村小だより

令和元年7月24日発行

確かな成長を実感して ～学校でも、家庭や地域でも～

校長 鈴木 正美

本日、終業式を迎えました。子どもたちの成長を実感する1学期でした。特に1年生の姿は、入学当初とは別人のように村上小の立派な一員になったことを物語っています。併せて、卒業生からリーダーを引き継いだ6年生も意欲的かつ堂々と全校を導く姿を様々な場面で見せてくれました。また、2～5年生も上学年の注意を素直に聞き入れ、わがままを言わないで活動しようとしたり、下学年の面倒を見たり、とても立派でした。それぞれの学年の成長を頼もしく、心強く、かつ嬉しく感じ、全職員で喜んでいるところです。

この間、予定した村小の教育を順調に進めることができました。それも保護者、地域の皆様からのご理解とご協力のおかげと、心から感謝申し上げます。

本日の終業式では、教育目標にかかわる「全校でがんばってほしいこと(3つ)」(4/12発行村小だよりに掲載)の評価について、以下のような話をしました。

～略～ 全校(248人)としての1学期の成績を発表します。学級担任の先生方(14人)から、自分の学級で「合格をあげられる子の数と、その内とてもよくできる子の数」を聞いて、全校の人数を表しました。自分のことを振り返りながら、見ていてください。

○1つ目の「人のお世話にならぬよう」:「人に迷惑をかけず、自分が成長するために、何事にも進んで取り組む」は、231人が合格(100点満点で93点)、その内「とてもよくできる」は、118人。

○2つ目の「人のお世話をしよう」:「人を優しく思いやる気持ちをもって、何事にも助け合いながら取り組む」は、241人が合格(97点)、その内「とてもよくできる」は、139人。

○3つ目の「そして、むくいを求めぬよう」:「ご褒美がなくても、学級・学校・地域のために学んだことを生かして取り組む」は、240人が合格(96点)、その内「とてもよくできる」は、122人。

「合格までもう少し」の人もわずかにいますが、全体としては、合格ラインを突破した人がたくさんいて、とてもすばらしいと思います。去年の1学期よりも全体の成績が上がりました。 ～略～

今年のお祭りも無事終了しました。荒馬、屋台巡行等には、163人(65.5%微増)の村小っ子が関わったようです。自分の町内や参加した町内のために、それぞれの役割をしっかりと務め、村小っ子の素晴らしさを発揮していました。見物に来ていた子どもたちも、友達に手を振って声援を送る光景も見られ、嬉しく思いました。ご家庭や地域でのご指導、見守り等、ありがとうございました。

また、昨日の「地藏様」でも、各町内での「子どもの務め」に一生懸命取り組む村小っ子の姿を見ました。また、「地藏様」への地域の方々の思いにも触れさせてもらい、嬉しい限りでした。

7月25日(木)～8月25日(日)まで、夏休みになりますが、子どもたちには「町内の絆を強める」「町内の役に立つ」体験等を積んでほしいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。